

「科学技術・イノベーションの力でアフリカを豊かに」(外務大臣科学技術顧問の提言骨子)

アフリカの 新たな課題

科学技術の 現状

- ◆ TICAD V以降、エボラウイルス症の流行、テロ問題、国際資源価格の下落、環境・気候変動問題等の課題に直面。
- ◆ 2015年1月、AUがアジェンダ2063を採択。2015年9月、国連がSDGsを含む持続可能な開発のための2030アジェンダを採択。課題解決に科学技術・イノベーションは重要。
- ◆ アフリカの研究開発投資は限定的、優秀な人材の頭脳流出という課題を内包。アフリカでの携帯電話の普及は「モバイル革命」をもたらし、ICT(情報通信技術)は飛躍的発展の可能性有り。

大枠の方向性

- 高い技術力(社会インフラ技術、システム技術含む)、人材育成等の日本らしさの重視。
- 信頼あるデータや科学的根拠に基づいた政策立案や各種取組の推進。
- アフリカの開発オーナーシップを最重視、アジェンダ2063を後押し。

提言1: 人材育成を通じたアフリカの科学技術水準の向上 “ブレイン・ドレインからブレイン・サーキュレーションへ”

(1) 日アフリカ研究者交流・ネットワーク強化

－研究者交流・共同研究の強化、アフリカにおける研究拠点の活用により持続的な研究ネットワークを構築し、頭脳循環を促す

(2) 産業発展を支える科学技術分野の人材育成

－エジプトのE-JUST、ルワンダのトゥンバ高等技術専門学校、汎アフリカ大学構想(ケニアのジョモケニヤッタ農工大学)支援等、産業界を牽引する人材育成のための高等教育強化

(3) 複数の協力主体を連携させた人材育成

－アフリカ各国の中核研究者から技術スタッフまで多様な人材を現地と日本で育成する「アフリカ感染症対策プログラム」を推進

(4) 共同研究の成果の域内第三国への発信・展開

－研究者招へいやシンポジウムの開催等を通じ、優良な成果をあげた共同研究の成果を域内第三国へ展開

提言2: 研究開発の成果を社会全体へ還元 “科学技術の力で人々の生活を豊かに”

(1) 共同研究の一層の推進と成果の活用

－研究成果を実用化すべく研究後の新規協力を開始

(2) 科学技術活用の重点分野における協力の強化

－科学技術の活用の潜在性が高い農業、栄養、環境・気候変動等は重点的に協力を推進

(3) 女性起業家や女性研究者の育成支援

－科学、技術、工学及び数学分野における女性の積極的役割の促進や女性研究者育成に向けた女子教育の拡充

(4) ICT人材育成を通じた経済の多角化支援

－ICT起業家支援等、ICT人材育成を強化し、産業構造を転換

(5) 国際機関との連携

－IAEAの原子力の平和的利用イニシアティブ(PUI)、国際農業研究協議グループ(CGIAR)との連携等、国際機関との連携強化